（様式1）

令和5年度　学力向上指導改善プラン

三田市立狭間中学校長　藤井　許善

学校教育目標	人間尊重を基盤とし、確かな学力と豊かな心でたくましく生きる生徒の育
推進主体	管理職・主幹教諭・研究推進担当・各教科代表で研究推進委員会を設置し、学力向上に向けた取り組みを推進する

学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況（国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む）	国語	・話すこと・聞くことの領域全体でも、全国平均より高く、言葉を使うことに関して力があると考えられる。 ・国語は、書くことの領域で正答率が他の問いに比べて低く、問題文を深く読み取れていなかったり、問いへの答えを適切に記述できなかったりする課題が見られた。
		算数 数学	・「データの活用」領域では、正答率が全国平均から上回っているので、身についている傾向が見られる。 ・連立方程式の計算が全国平均より低い。連立方程式の解き方が身についていない傾向が見られる。
		ICT機器を効果的に活用した取組状況	・各授業の板書を撮影し、全生徒に配信することで授業の復習をしやすくしている。また、書くことに時間がかかる生徒にとっても自分のペースで学習を進める個に応じた学習が可能になっている。 ・ドリルパークを朝学習で積極的に活用しており、基礎・基本の定着を図ることができている。
	定期テスト、単元テストなどによる状況（各教科）		・学校評価の「基礎学力の定着に向けた取り組み」については、90.7%の生徒が肯定的な回答をしている。生徒、保護者のニーズを捉え基礎学力の定着をさらに図る必要がある。
	授業等からうかがえる状況（各教科）		・学校評価「授業がわかりやすい」の項目では、生徒の88.6%が肯定的な評価をしているものの、昨年度より8%の減少となった。 ・タブレットを使って「主体的・対話的な学び」を実現するための授業に取り組む教員も増え始めている。
学力向上に係る学習習慣等の状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況		・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」の質問にたたいして、肯定的な回答が、全国平均よりともに6%以上高い。昨年度より何度も、自ら学ぼうとすることの大切を語ってきた成果だと考えられる。 ・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」の質問にたいして、肯定的な回答が、全国平均よりとも
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況		・学校評価アンケートの「教師は、生徒のことを良く理解し、適時・適切に指導している」「生徒の個性を大切にし、一人ひとりに活躍の機会と場がある」については、生徒の肯定的意見の割合は80%を超えているが、保護者の肯定的割合が70%程度であることは課題である。教育相談や各種調査を
校内研修の状況・研究	校内研究の状況		・評価の在り方についての研修や特別支援教育、生徒指導についての研修を実施した。
	校内研修の状況		・通級生徒については、指導員との連携を図り、指導に生かした。 ・ハイパーＱＵを実施した後に研修会を行って、生徒理解や
家庭・地域連携	家庭・地域等の状況		・入学説明会開催時に小学6年生児童・保護者を対象にスマホの上手な使い方等について啓発した。 ・生徒会主体でスマホ利用の啓発動画を撮り、公開した。
校種間	小・中における教科連携等の状況		・生徒会が中心となり中学校生活に係る出前授業を実施した。また、中学校教員による小学校への出前授業も実施した。今後も校区で設定しためざす子ども像をもとに、小中一貫教育を計画的に推進したい。

4月			2～3月	
学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標 （指標となる数値等）	具体的な行動目標 （成果目標達成のための具体的な手立て等）	年度末評価 （今年度の成果と来年度に向けた課題等）	評価
1．生徒が主体となる授業を創造する ～主体的な学びを支援する授業実践～ ・論理的思考力の育成 ・批判的思考力の育成 ・自己分析力（メタ認知）の育成	・教科等横断的な学習による論理的思考力の育成を図る。（道徳、数学、国語、理科、技術を中心にして全教科、全領域で展開） ・教科等横断的な学習による批判的思考力の育成を図る。（道徳、社会、家庭を中心にして全教科、全領域で展開） ・教科等横断的な学習による自己分析力の向上を図る。（道徳、英語、音楽、美術、保健体育を中心に全教科、全領域で展開） ・学校評価アンケートにおいて、生徒の学習状況を把握する。「授業が分かりやすい」に対して生徒、保護者の肯定的評価の回答が85%以上を目指す。	・言葉に関する興味・関心を高め、語彙を増やすことで言語活動の充実を図る。 ・資料をもとに論理的に書く、話す力を育成する。 ・タブレット・ICT機器を活用して他者に伝わるプレゼンテーション能力を高める。 ・課題を設定し、予想を立ててから実験したり、資料をもとに検証したりする探究的な学習を展開する。 ・根拠を明確にしながら、筋道を立てて問題を考える活動の充実を図る。 ・自己内対話をとおして批判的な思考を高める活動の充実を図る。		
2　自学・自習の習慣が定着する取り組みを推進する	・ICTを活用した基礎学力の定着を図る。（ドリルパークの積極的活用） ・自らの学びの記録をもとに学習計画を立て、自らが学習方法を工夫する。 ・学校評価アンケートにおいて、生徒の学習状況を把握する。「家庭学習の取組」に関する項目で生徒、保護者の肯定的評価の回答が70%以上を目指す。	・各教科で自主学習の方法を紹介し、生徒の学習意欲の向上を支援する。 ・木曜日の「がんばりタイムを充実させ、基礎学力の向上に取り組む。		
3　生徒主体の創造的活動を充実する	・問題解決的な活動、探究的な活動によって生徒自治の風土を高める。	・学校のきまり、ネットモラル等、生徒の考えた成果を学校生活に積極的に反映できる場を作ることで自己肯定感を高める。 ・自ら課題を発見し、その解決にむけて生徒同士で協働的に取り組むことで、生きて働く思考力を育成する。		
4　家庭、地域、学校園所との連携を推進する ～目指す子ども像の共有による狭間っ子の育成～	・学校園所連携の充実を図る（学びの連続性、生活習慣の定着）。 ・地域の体験活動への積極的参加を促す。	・担当者別の会議を積極的に開催し、目指す子ども像の達成に向けた取り組みを繰り返し点検する。 ・個々の児童生徒の学力や課題を具体的に把握することで、小学校から中学校への接続が円滑にできるようにする。		
5　命と人権を考えるカリキュラムを推進する。	・生徒の体験活動、講演会等による学ぶ動機付けの充実を図る。 ・SNS等に係る生徒指導事案の割合を昨年度より低くする	・生徒、保護者への情報モラルに係る講習や啓発を年間指導計画に基づき実施する。		
	・学習のUD化、ICTを活用した学習支援を進める。	・校内研修の機会やOJTをとおして、狭間中の学びの環境スタンダードを設定する。		
	・教育相談の充実（チューター制の導入）を図る。	・教育相談アンケートによる詳細な分析から個々の生徒の特性を的確に把握し、生徒理解に努め個性の尊重を図る。 ・ハイパーQU等のアンケート調査により、学級の状況を客観的に把握し、学級指導に役立てる。 ・４月に教育相談期間を設定する。		
	・生徒を支援する効果的な方法について理解し、教育実践にいかす。	・通級指導員より研修を受け、そのスキルを授業に反映させる。 ・ハイパーＱＵを実施した後に講師を招いての研修会を行って指導改善に役立てる。		
	・相談室の整備をさらに進めるとともに、多様な学びのスタイルに適応できる環境を整備する。	・SC,SSWや関係機関と連携し、学校生活に適応できない生徒や課題のある生徒へのケアに努める。		